

新島学園短期大学・星美学園短期大学

相互評価報告書

平成26年 3月

新島学園短期大学・星美学園短期大学

はじめに

新島学園短期大学
学長 狩野 俊郎

星美学園短期大学と新島学園短期大学の協働の成果としての自己点検・評価に関する相互評価をここに報告できますことは、誠に感慨深いものがあります。

新島学園短期大学は、財団法人短期大学基準協会にお願いし、2010年10月に第三者評価を実施いたしました。しかし、同年7月には第2評価期間に使用する評価基準の改定案が決定されており、本学の継続的自己点検に課題が残りました。そこで、本学としては、早期に新基準による自己点検を行う必要性を感じ、また、2010年2月に、すでに星美学園短期大学の草野先生から相互評価の打診をいただいておりますので、この度の相互評価実施の運びとなりました。

相互評価を実施して感じますことは、他者に自己点検の状況を評価されることがその先に予定されていることから、自己点検の緩みが少なくなったこと、相互訪問により忌憚のない率直な意見交換ができ、学校運営において真摯に取り組むべき課題を、一層明確に認識できるようになったこと、学内の見学により、星美学園の理念を反映した素晴らしい施設を「百聞は一見に如かず」の思いで拝見し、本学の課題を確認できたことなどです。

このたびの相互評価を通して培われました相互の信頼関係は、これからの両校にとって誠に大きな財産になるものと確信しております。

相互評価の実施の準備から報告書の作成に至るまでご尽力いただきました星美学園短期大学の皆さまに、心から感謝とお礼を申し上げますとともに、今後とも、星美学園短期大学と新島学園短期大学のつながりが豊かになり、共に成長していくことができますよう祈念いたします。

はじめに

星美学園短期大学
学長 阿部 健一

このたびの相互評価の実施に当たり、実施の準備、報告書の作成等にご尽力いただきました新島学園短期大学の関係者のみなさまに、心より感謝とお礼を申し上げます。

新島学園短期大学と本学は、ほぼ同規模の短期大学であり、キリスト教をベースにした教育を行っている点、学科編成も同様であることから、それぞれの現状と課題を真摯に共有することができ、そのことが大変有意義な相互評価に繋がったように思います。相互評価の実りとして本報告書が作成されましたが、相互評価の過程において、本報告書には反映されない、たくさんの学びがありました。

それぞれの短期大学で行われる自己点検・評価や外部機関によって行われる第三者評価は、言うまでもなく重要なものですが、現状と課題を共有する短期大学同士が胸襟を開いてお互いに学び合えるという点で、相互評価には、また特別な意義があることを改めて実感いたしました。

本学への訪問評価の際には、学長先生をはじめ大勢の教職員の方々にお越しいただきました。短い時間の中ではありましたが、大変に有意義な意見交換ができ、また新島学園短期大学の高みを目指そうとする真摯な姿勢に、私どもも大変励まされました。

今後は、それぞれの大学において自己点検・評価報告書を作成し、外部機関による第三者評価を受けることとなりますが、その過程におきましても、お互いに情報交換をしながら学びあうことができればと願っております。

今回の相互評価を機会に、今後とも、新島学園短期大学と星美学園短期大学が兄弟姉妹的な繋がりを持って交流し、共に向上していくことができれば幸いに存じます。

目 次

はじめに

| | |
|------------------------|----|
| 1. 相互評価評価員氏名 | 1 |
| 2. 相互評価実施要項 | 2 |
| 3. 相互評価協定承諾書 | 3 |
| 4. 各短期大学に対する総評 | 5 |
| (1)新島学園短期大学について | |
| (2)星美学園短期大学について | |
| 5. 各短期大学に対する質問事項とその回答 | 9 |
| (1)星美学園短期大学から新島学園短期大学へ | |
| (2)新島学園短期大学から星美学園短期大学へ | |
| 6. 議事録 | 33 |

相互評価を終えて

1. 相互評価評価員氏名

(1) 新島学園短期大学

| | | |
|----|-------|--------------------------------|
| 委員 | 狩野 俊郎 | (学長) |
| 委員 | 前田 浩 | (キャリアデザイン学科教授・ALO・入試部長・評価計画主任) |
| 委員 | 山口 憲二 | (キャリアデザイン学科教授・教務部長) |
| 委員 | 澤田まゆみ | (コミュニティ子ども学科准教授・ホームページ等編集管理主任) |
| 委員 | 山下 智子 | (キャリアデザイン学科准教授・宗教主任) |
| 委員 | 上岡 紀美 | (コミュニティ子ども学科専任講師) |
| 委員 | 中島 健行 | (総務財務課長) |
| 委員 | 御供 正人 | (総務財務課主任) |

(2) 星美学園短期大学

| | | |
|-----|-------|--------------------------------|
| 委員長 | 阿部 健一 | (学長) |
| 委員 | 草野 隆 | (人間文化学科 学科長・教授・図書館長) |
| 委員 | 永井ムツ雄 | (人間文化学科教授・学生部長) |
| 委員 | 江口 政江 | (人間文化学科教授・CMP 副センター長) |
| 委員 | 田中 直美 | (幼児保育学科准教授・教務部長・ALO・第三者評価評価員) |
| 委員 | 打越みゆき | (幼児保育学科専任講師・自己点検・第三者評価委員会副委員長) |
| 事務局 | 白山 真澄 | (企画管理課長・入試広報センター長) |

2. 相互評価実施要項

(1) 相互評価の目的

各短期大学が個々に行ってきた自己点検・評価をもとに、相手方の短期大学が、他者の視点で点検・評価を行い、それを相互に変換することによって、お互いに学びあい、教育活動をより充実させ、短期大学の質的向上を目指す。

(2) 相互評価の実施校・対象学科

新島学園短期大学 キャリアデザイン学科・コミュニティ子ども学科
星美学園短期大学 人間文化学科・幼児保育学科

(3) 評価項目・内容

平成 24 年度より再編成された短期大学基準協会による第三者評価の評価基準のうち、評価基準Ⅰ、Ⅱについて相互点検・相互評価を行うこととする。

(4) 相互評価の方法

双方の『自己点検・評価報告書』その他の資料をあらかじめ送付し、それに関わる質問事項を相手方に送付する。その質問に対する回答を書面で準備し、事前に相手方の短期大学に送り、相互評価委員会において、それらについて話し合う。相互評価委員会は、各短期大学を、もう一方の短期大学が訪問する形で行い、会場となった短期大学の内容について取り扱う。質問や回答の送付等は可能な限り、E-mail を活用する。

(5) 実施時期

| | |
|---------------|-----------------------------------------|
| 平成 25 年 5 月末 | 平成 24 年度の『自己点検・評価報告書』の交換 (E-mail および郵送) |
| 平成 25 年 9 月末 | 相互に質問状送付 (E-mail) |
| 平成 25 年 11 月末 | 相互に質問状に対する回答を送付 (E-mail) |
| 平成 26 年 1 月中旬 | 第 1 回相互評価委員会 会場校 (新島学園短期大学) |
| 平成 26 年 1 月下旬 | 第 2 回相互評価委員会 会場校 (星美学園短期大学) |

(6) 『相互評価報告書』の作成

双方の短期大学の代表からなる報告書作成のためのワーキング・グループをつくり、平成 26 年 3 月末日までに『相互評価報告書』を作成し、短期大学基準協会へ提出する。

附則 この要項は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

新島学園短期大学と星美学園短期大学

相互評価協定承諾書

双方で相互評価を実施することに同意いたします。

本承諾書を交換し、相互評価に関する事項について、

平成25年度中に終了すべく遺漏のないよう努めます。

平成24年5月24日

星美学園短期大学

学長 阿部 健一 殿

新島学園短期大学
学長 狩野 俊郎



星美学園短期大学と新島学園短期大学

相互評価協定承諾書

双方で相互評価を実施することに同意いたします。

本承諾書を交換し、相互評価に関する事項について、

平成25年度中に終了すべく遺漏のないよう努めます。

平成24年5月24日

新島学園短期大学

学長 狩野 俊郎 殿

星美学園短期大学
学長 阿部 健一



4. 各短期大学に対する総評

(1) 新島学園短期大学について

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

【特に優れた試みと評価できる事項】

◎2007年に新島学園全体で「キリスト教教育諮問委員会」が設置され、キリスト教教育について検証された。この結果を受け、短期大学でも建学の精神の根幹をなすキリスト教教育の充実が図られ、宗教委員会での事業計画や報告に達成の状況が反映されるほか、2011年には「キリスト教教育の現状と課題」を報告書としてまとめられている。

○建学の精神や教育理念は、『学生便覧』、『大学案内』、『新島学園要覧』、ホームページ等に明示されている。さらには、建学の精神や教育理念を実現するために、両学科共通の「新島襄ーその時代と生涯ー」「キリスト教入門」の他、「群馬とキリスト教」「女性と宗教」「キリスト教保育」「キリスト教音楽」など、多彩な科目が開講されている。

◎建学の精神や教育理念を深めるための取り組みとして、「チャペルアワー」「サマーキャンプ」「キリスト教文化週間」が設けられている。特に「チャペルアワー」については、毎週火曜日2限に設置し、授業は行わない、図書館を閉館するなど、学生が参加しやすいよう配慮されている。

◎両学科とも、授業評価の総合評価項目において、基準となる評価値に達しなかった授業の担当教員に対して「自己分析と改善策」の提出が求められ、授業改善が行われており、PDCAサイクルが機能している。

○コミュニティ子ども学科では、短大まで足を運ばない親、緊急を要するような子育てに関する不安や悩みを持つ親に対して、「ネットを利用した子育て支援」など、いつでも対応できる相談窓口が設けられており、地域社会の子育て家庭へ実質的な支援をしている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

【特に優れた試みと評価できる事項】

◎学習成果の査定(アセスメント)として、両学科ともGPA制度を導入しており、累積GPAが1.50を下回ると、単位が修得できていても卒業できない。評価の低かった科目については再履修できる仕組みが整っており、卒業時の学習成果が保証されている。

◎ 学習成果をあげる取り組みとして、キャリアデザイン学科においては「英語基礎力認定試験」「PCパス」「漢字検定3級」、コミュニティ子ども学科においては、実習前に文

章力やピアノ技術の強化を目指した補習を行うなど、基礎学力が不足する学生に対して、両学科とも各種のテストや補習を行う仕組みが整っている。

○キャリアセンターのスペースが広く、担当職員も多い。業務内容も各種進路ガイダンスの実施、四年制大学への編入対策や、公務員採用試験や群馬県の幼稚園・保育所で実施されている採用適性検査に向けての対策講座、補習など、学生が希望する進路に対しての支援の仕組みが整っている。

○日本学生支援機構の奨学金の他、団体と提携した奨学金、「新島学園短期大学貸与奨学金」「在学時特待」、住居費補助など、学生を経済的に支援する制度が整っている。

○教員の研究室が研究棟に集約して整備されており、教員一人ひとりに十分なスペースがある。教員の研究環境として整っているだけでなく、このスペースを学生指導に充てることができ、有効に研究室が活用されている。

【向上・充実のための課題】

○建学の精神、教育理念に関するアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、両学科共通、もしくは表現内容の統一を図ることが望ましい。

○コミュニティ子ども学科においては、アドミッション・ポリシーとディプロマ・ポリシーの差がほとんどないため、各ポリシーにおいて内容を再検討することが望ましい。

○学生の卒業後評価への取り組みについて、情報の収集とフィードバックの方法について、改善の余地があると思われる。

【早急に改善を要すると判断される事項】

なし

(2) 星美学園短期大学について

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

【特に優れた試みと評価できる事項】

- ◎建学の精神を基盤に育成すべき人間像を「明敏、清純、温和」としているが、その教育目的を達成するために教職員と学生が協働して「教育プロジェクト」を実施し、教育成果を学生自身によるアンケートという手法で評価している点は、評価が難しい事柄であるだけに非常に優れた試みとして評価できる。
- 建学の精神を学内で共有するため、学生に対する入学時の富士山麓一泊研修、教職員に対する新任研修、半日研修、教員連絡会等、研修が積極的に行われている点は優れた試みとして評価できる。
- ◎研究授業を行っていることが優れた試みとしてあげられる。学長自らが率先して第1回目の研究授業を行ったことや、さらに、単なる授業公開に留まらず、今後の授業の向上のために、研究討議の場を設け、意見交換を行っていることが大いに評価できる。
- 複数教員が共同で担当する「幼児保育キャリア演習Ⅰ」、「幼児保育キャリア演習Ⅱ」、「保育・教職実践演習（幼稚園）」等において、担当教員間で打ち合わせを行い、進捗やレベルの確認、問題の把握や授業内容の改善を行い、評価のばらつきが起らないよう明確な基準を設けていることが評価できる。
- 「みなさんの声」という学生意見箱を設置し、学生の意見を聴取し常に組織を改善しようとする姿勢や学生の意見を組織的にきちんと管理している体制が評価できる。
- 自己点検評価活動における組織が充実していることが評価できる。「自己点検・第三者評価委員会」、「管理運営委員会」、「総合評価委員会」という3つの委員会が自己点検評価にかかわり、「星美学園短期大学自己評価規程」に基づき、毎年「自己点検・評価報告書」（Web版を含め）を発行している。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

【特に優れた試みと評価できる事項】

- アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの整備と、それに基づく各種機能との整合性を検証する仕組みや手順が整い、常に改善することの重要性が認識されている。
- 幼児保育学科では、学生が修得したい資格の組み合わせをすべて網羅した5つの履修パターン別に、履修チェック表を作成することで、履修計画をわかりやすくしているのは優れた工夫として評価できる。
- ◎多くの大学が苦勞している学生の卒業後評価を、進路先アンケートと直接聴取で行い、学科とキャリアセンターが情報を共有し、学習成果の点検に活用しようとしている。さらにその改善についても検討が行われている。
- 授業評価方法では、学長・副学長を含めたチェック体制や、教員が自由に設定できる質問欄を設けるなど、全学的かつ各授業に即したアンケートが実施されており、積極的な

取り組みがみられる。

- 事務職員全員が、事務職員連絡会や毎朝の朝礼で、単位取得状況、学納金納付状況、進路決定状況、図書館利用状況、サークル活動などを把握できており、教員との連絡を密にして、学生の履修及び卒業に至る支援体制が整っている。
- 人間文化学科・幼児保育学科ともに、キャリア教育を正課として設定、必修化することでキャリア教育の時間が確保されており、学生の充実した進路支援に繋がるものとして評価できる。
- 学園ゆかりの地をめぐるイタリア研修旅行を通して、自校教育が強化されるとともに、現地の幼稚園見学もプログラムに取り入れられており、幼児保育学科の学生が広い視野をもって保育を捉える学びの場が提供されている点が評価できる。

【向上・充実のための課題】

- 授業評価結果の利用が各教員の裁量に委ねられている点が向上・充実のための課題としてあげられる。時代の要請は、もう一步踏み込んだ評価結果の活用が求めているように思われる。授業評価結果の組織的な活用方法を検討されたい。
- 3ポリシーを中心とした各種機能の整合性は当然重要だが、あまりにも形式的にそれを重視し過ぎて、そのことが授業の展開や評価の方法の創造的自由度を制約することがないように配慮することも必要だろう。たとえば幼児保育学科では、「ディプロマ・ポリシーに対応した各学科目の位置づけがなされていない点が課題である」とあるが、形式的整合性と、現実的必要性のバランスの問題とも考えられる。
- 就職活動に有利な資格検定（コンピュータ検定・漢字検定・秘書検定など）の受験が推奨されているが、実際に受験する学生は少人数に留まっているとの現状を鑑みると、学生への働きかけを強めるために、短大として組織的な支援の取り組みが今後の課題としてあげられる。

【早急に改善を要すると判断される事項】

なし

5. 各短期大学に対する質問事項とその回答

(1) 新島学園短期大学から星美学園短期大学へ

基準 I-B-3 教育の質を保証している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9 | 履修アンケートの課題として、教員の意識向上をはじめ、評価基準の提出方法等のシステム化を挙げられています。どのようなシステム構築をお考えですか。 | 現時点で、学科目履修アンケートの実施は90%を超えていて、学科目履修アンケートそのものは浸透しているが、その結果を活用、改善につなげることはできていない。PDCA サイクルを円滑に行うためには、評価基準の提出、さらにはアンケートで得られた結果から、いかに Act (処置・改善) につなげるか、システムの構築を検討している。 さしあたって、平成 25 年度は、学科目履修アンケートの自由記述について、各教員から結果をいかに活用するか、各科目でレポートを提出するよう、計画・実施中である。 |
| 9 | 「人間文化学科」の記述に「前年度卒業認定の問題を検討している。」とありますが、「卒業認定の問題」とは具体的にどのような問題ですか。 | 履修科目の偏りによって、まんべんなく履修することを求めた学科の履修ガイドラインに抵触する学生が出ることもある。そうした個々の学生の事例の検討を通じて、学生のモチベーションの維持とカリキュラムの活性化を図ってきたということである。 |

基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11 | 自己点検・評価活動のための組織として「自己点検・第三者評価委員会」、「管理運営委員会」、「総合評価委員会」の3つの委員会が挙げられますが、三者の関係をもう少し詳細にお教えてください。 | 自己点検・評価活動のための組織として、総合評価委員会が自己点検・第三者評価委員会、管理運営委員会を統括している。総合評価委員会のメンバーは、運営協議会のメンバー(学長、副学長、学科長、教務部長、学生部長、図書館長、事務部長)と同じである。 自己点検・第三者評価委員会は、教育研究活動について、自己点検を行い、総合評価委員会に報告する。 管理運営委員会は、管理運営について自己点検 |

| | | |
|--|--|-------------------|
| | | を行い、総合評価委員会に報告する。 |
|--|--|-------------------|

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13 | 学生の福祉における問題点とそれに対する改善策をお教えてください。 | SD活動の一つとして、「みなさんの声」活動がある。学生が困っていること、よりよくしてほしいことなどを記入してポストに入れると、月に一度のSD会議でそれを検討して、意見に該当する部署が回答し、改善につなげている。休み時間を過ごす部屋についてや、昼食についての意見が多いが、学習面での悩みなども入るので、その際には教員に連絡を取ることもある。身近な問題発掘と改善につながる活動である。 |

基準Ⅱ-A 教育課程編成・実施の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13 | 学生の卒業後調査は学習成果の点検にどのように活かされていますか。 | <p>卒業生アンケートはキャリアセンターが実施、集計し、結果を学科会と教授会に提出しており、各学科学生の学習支援につなげている。選択式の回答の他に、自由記述部分も設けている。</p> <p>人間文化学科では、毎年5～7月のカリキュラム検討の機会に、就職状況や、就職先からのフィードバックについて総合的に検討し、学科目の統廃合や、コースカリキュラムの設定に反映させてきた。</p> <p>幼児保育学科では、教授会で報告された卒業後調査から、教育上の問題点、反省点が浮かび上がってきた時は、学科会にて精査し、対策を講じることにしている。</p> |
| 14 | 学生の卒業後評価のためのアンケートの実施方法、回収率についてお教えてください。 | 就職決定後、内定者説明会を実施し、その際に本人宛名を記入させた往復はがきでアンケートを実施した。1年後にアンケートが届くということを知らせ、回収率を上げる目的であったが、実際には回収率は高くはない。企業就職者 45.8%、幼稚園・保育園就職者 39% (平成20年まとめ分) |

基準Ⅱ－A－1 学位授与の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 | 「教授会」には、いわゆる「教授教授会」と「拡大教授会」の2種類あるように見受けられますが、それらの使い分けと構成員について教えてください。 | 大学設置基準による教授会が教授のみによる「教授会」であり、主に人事などを審議する。開催されることは少ない。各種学事や学生福祉関係の案件などは、通常、准教授、専任講師、事務職員（各分掌の長など。必要に応じて案件の担当職員）の参加する「拡大教授会」で審議する。なお、拡大教授会に先だって、学科長、副学長、学科長、教務部長、学生部長、図書館長、事務部長による「運営協議会」が開かれるのが通例で、幹部教職員の連絡調整のための会議となっている。 |
| 15 | 「人間文化学科」の記述に「学生からの見通しが悪くなりがちである」という記述がありますが、具体的にどういう意味ですか。 | 人間文化学科は、3つのコースによって成り立っている。各コースに履修プランがあるが、同一学科目が、コースによって必修の専門的知識を得る科目であったり、資格取得のための科目であったり、教養的な位置付けの科目であったりすることがある。個々の学生がこの事情を充分認識していれば問題は無いと思われるが、現状では時に認識不足の場合もあるようで、その点についての懸念である。 |

基準Ⅱ－A－2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 18 | 「人間文化学科」の記述に「カリキュラム検討グループ」とありますが、その組織的な位置付けと構成員について教えてください。 | 学科の教員のうち、教務委員の教員と、外国語や総合教養特にイタリア語関係に詳しい副学長、情報関係を担当する教員がワークグループを作って、特に2学科にまたがる学科目について検討することになっていた。このグループが学科の学科目・カリキュラムについても検討するようになったものである。 |

基準Ⅱ－A－3 入学者受け入れの方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 20 | AO入試（A日程）におけるアンケートシートとはどのようなものですか。 | 面談に関する内容について、最初に受験生に記入してもらう。内容は、希望する免許の種類、高校の各教科について、ピアノ・楽器演奏経験、高 |

| | | |
|--|--|------------------------------------------------|
| | | 校生活で頑張ったこと、星美でどのようなことを学びたいか、など、A3・1枚に20分で記入する。 |
|--|--|------------------------------------------------|

基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20 | 「人間文化学科」の記述に「1泊の研修プログラム」とありますが、プログラムの主な内容はどのようなものですか。 | 学生による卒業研究の中間報告が主要プログラムである。2年次の全学生が発表する。近時はほとんど全ての学生がPPTによってプレゼンテーションする。終了後、教員の講評があるほか、学生相互のコメント（アンケートによる）も行われる。学生数によって、初日午後から翌日の午前があてられ、そのほかに教養プログラムとして博物館等の見学と、親睦のためのゲームなども行われる。 |
| 21 | 「人間文化学科」の記述に「キャリア力」とありますが、その定義はどのようなものですか。 | 人間文化学科のディプロマポリシーに「2. 仕事の力：仕事をこなす力を確実に身につけ、社会に貢献する力を持っている。」と規定している。 |
| 21 | 「人間文化学科」の記述に「対人コミュニケーション力を判定して数値化し」とありますが、数値化は可能だとお考えですか。また、可能だとした場合、そのことに問題点はありませんか。 | 近時求められているのは、達成度の客観的な検証である。ルーブリックのような評価項目を設定して、そのうちの項目をどのレベルで実現したかを数値化することを想定している。こうした数値化の問題は、学習達成度の数値化についての普遍的な問題であり、数学であれ国語であれ、同様であろうと思われる。 |

基準Ⅱ-B 学生支援

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 | 「学習相談室」とあり、その内容は p.29 に記載されていますが、その構成員と人数はどのようになっていますか。「キャリアセンター」との役割分担はどのようになっているのでしょうか。 また、「学習相談室」の活用において効果が見られた事例 | ①学習相談室の構成員と人数 — 専任教員 15名（学長を除く）で構成している。教務・学生支援課に届いた「学習相談申し込み票」に、学生が相談を希望する専任教員の氏名が記載されているため、当該教員が相談に対応して、指導を実施するシステムとなっている。 ②「キャリアセンター」との役割分担 — キャリアセンターは、学生の就職活動支援を専門に行う部署となっており、応募書類作成をはじめとす |

| | | |
|-------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>がありましたらお教えてください。</p> | | <p>る就職活動や、就職試験等の指導、相談に当たるとともに、具体的な就職先の紹介も実施している。また、四年制大学編入指導については、編入担当教員が、編入学を志望する当該学生の指導・相談に当たっている。さらに、就職試験や四年制大学編入試験における履歴書の添削、推薦書記入や小論文指導などについては、当該学生をよく知るアシステンテ(ゼミ担当教員)も指導に当たる。一方、学習相談室は、主として、学生の学習に関する相談等を受ける一システムであるとともに、学生が希望する教員、または、アシステンテからの紹介により、指導を依頼された教員が、それぞれ相談にのり、指導している。</p> <p>③効果が見られた事例 — 幼稚園実習前のピアノ演奏の指導、保育関連の就職試験対策のための実技指導、幼稚園・保育所実習日誌の具体的な書き方指導、四年制大学編入のための小論文指導などにより、それぞれの場合に応じて、具体的に学生のそれぞれの実力が伸長し、進路希望が具体的に実現し、実績が積み重ねられつつある。</p> |
|-------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25 | <p>「教員」の記述に「アシステンテ」とあります。これは後の記述から、いわゆる「ゼミ担当教員」や「クラス担任」のようなものと判断されますが、違いがありますか。違いがあるとすれば、学生個人に対して担うそれぞれの役割はどのようなものでしょうか。また、後の記述で、1教員が6人から10人を担当するとあり、担当学生数にばらつきがあるようですが、どのような方法で学生を配分している</p> | <p>学生のクラス単位での学内行事・学外研修などの行動は「クラスアドバイザー(クラス担任)」が指導にあたる。「アシステンテ」は、専任教員が各学年の学生を数名ずつ担当し、各学年の学生の学習・生活の相談相手となり指導を行う。一人ひとりの学生が健全な学生生活を送っているか、社会人となる人間として成長しているかなど、「共に、居る」立場で学生を支援しアドバイスをを行う役割をもつ。担当する学生数は学科により異なる。</p> <p>人間文化学科では入学時に学生の選んだコース(医療福祉管理/イタリア語イタリア文化/総合キャリア)の履修分野により「アシステンテ」教員を決定する。2年次および専攻科は、卒業論</p> |

| | | |
|----|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | のですか。 | <p>文／卒業研究の指導担当教員がその学生の「アシステンテ」となる。学生の選んだ研究内容と教員の専門分野とを調整し、担当学生数が決定する。</p> <p>幼児保育学科では、各学年を8人の教員で専門分野に関係なく等分して「アシステンテ」となる。基本的には2年間持ち上がる。教員1人あたりの受け持ち人数は、学年の総数によって多少前後する。</p> |
| 25 | 「教員」の記述に「平成23年度の教員に対するアンケート」とありますが、その目的と内容はどのようなものですか。 | <p>「平成23年度の教員に対するアンケート」は、平成22年度まで行われていた学科履修アンケートについて、教員の授業改善に有効な内容にするべく、内容の再検討のために行った。内容は、①学科履修アンケートの集計結果を授業の改善に活用しているか。活用している場合、どのように活用しているか。活用していない場合、なぜ活用しないか。②授業の改善に役立っている項目、役立たない項目。③その他、教員からの意見について、回答を求めた。</p> |
| 27 | 「教職員」の記述に「企画展示等」とありますが、どのような企画展示かお教えください。 | <p>図書館入口正面の展示ケースを利用して、企画展示を行っている。これを利用して、図書館と本学教員が連携して、教員回り持ちでその専門分野に関わる品物や関係図書を展示している。3ヶ月毎に展示資料を入れ替え、年4回、種々のテーマにて資料や作品の展示を行う。利用者(主に学生)が関心を持つと思われるテーマを選び、その内容を分かりやすく、かつ興味を惹きやすい方法で紹介することを趣旨としており、平成19(2007)年度以降開催している。利用者の知的関心の向上、学内外への情報発信、情報交流の場など大いに役立っている。</p> <p>たとえば、過去のテーマは次の通りである。</p> <p>【特別支援教育がわかる絵本－様々な個性との出会い－】</p> <p>【音づくりグッズ－絵本と楽器のコラボレーション－】</p> <p>【いのちとところの宇宙(コスモス)－みずぶコスモスに包まれて－】</p> |

| | | |
|----|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28 | 「教職員」の記述に「ノートパソコンを貸し出し」とありますが、その管理方法、管理体制についてお教えてください。 | <p>本学では、「情報処理実習室」、「情報処理演習室」、「LL 教室」「視聴覚室」の情報ネットワークシステム、および、各階の教室、「303 室」、「306 室」、「403 室」に常設されたノートパソコンは、「情報教育センター」が管理している。</p> <p>また、ネットワーク利用が出来る「学生・教職員貸出パソコン」は、「情報教育センター」が管理し、「教務・学生支援課」が窓口として対応している。</p> <p>「学生・教職員貸出パソコン」の貸し出し時には、台帳に必要事項（貸出日時、返却日時、用途など）を記入させている。</p> |
|----|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準Ⅱ－B－2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28 | 「優秀な学生に対しては、課題を与えるようにし」とありますが、具体的にどのような課題を与えていますか。 | 人間文化学科では、卒業研究が必修である。この指導を通じて、より高度な調査研究について指導が行われている。幼児保育学科では専攻科で必修となっていて、同様である。個々の授業については教員による。 |

基準Ⅱ－B－3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 30 | 学生部委員会の構成員が述べられていますが、それぞれの人数と全体の人数をお教えてください。 | <p>学生部委員会の構成員は総勢10名である。内訳は以下の通り。</p> <p>専任教員＝7名(副学長、人間文化学科3名、幼児保育学科3名)</p> <p>専任職員＝3名(キャリアセンター長、教務・学生支援課職員、CMPセンター長)</p> <p>※ CMP センター…学内におけるキリスト教のあり方を考え、キリスト教行事の企画・運営を行う。</p> |
| 32 | 「デイリーヤマザキ」があることは望ましくてよいことだと考えられますが、採算性の問題をどのように解決しているか。 | 「デイリーヤマザキ」は完全外部委託で運営しており、採算性は関与していないが、行事の折に利用する等、利用促進のための協力体制はとっている。 |

| | | |
|--|-----------|--|
| | 運営していますか。 | |
|--|-----------|--|

基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 37 | 「入学前課題」では、具体的にどのような課題を課していますか。 | <p>人間文化学科では、全コースの入学生に対して、漢字力をつけることと、時事の話題に関心を持つことを求めている。ワークシートを配布し、その結果を入学後に提出させる。また、イタリア語イタリア文化コース入学生に対しては、イタリアに関する新聞雑誌の記事のファイリングを課している。イタリア語辞書を購入することも求めている。</p> <p>幼児保育学科では2つの課題を実施している。一つは、保育を学ぶ上での導入として、課題図書・神長美津子監修(2007)『保育者になりたいあなたへ』小学館 を読み、質問項目に沿ってレポートをまとめる課題。もう一つは、指定された3冊の絵本の中から1冊を選び、作品を理解するためのワークシート(B4・1枚)にまとめる課題である。今後、課題図書については、久富陽子・編著(2012)『保育の学び スタートブック』萌文書林に変更し、入学前課題で出題しない部分は、入学後の「幼児保育キャリア演習Ⅰ」で扱う予定である。また、絵本の課題については、保育者として修得してほしい「保育漢字テスト」を送付し、こちらも入学後にテストということを考えている。</p> |
| 37 | 「ウエルカム・ガイダンス」とありますが、主な内容をお教えてください。 | <p>学長の挨拶に続いて、ガイダンスウィーク・学外研修(一泊旅行)の概説、緊急連絡システム(e-pa)の説明と登録などが行われる。続いて学科カリキュラムとそのコンセプトについて周知を図るガイダンスが行われる。このモチベーションを高めるため、キャリアシート(自己発見のためのカルテ)を配布し、記入をはじめ(完成は授業「キャリア総合演習Ⅰ」において)。親睦のためのミニゲームを行い、最後に教員を交えた小グループでQ&Aタイムとするなど懇話会を持つ。</p> |

| | | |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>37</p> | <p>「学外宿泊研修」はよい試みだと考えられますが、その主な内容はどのようなものですか。</p> <p>また、最近では初対面の人との宿泊を嫌う学生も少なくなっているように思われますが、実施上の問題点はありますか。</p> | <p>過去には履修についてのガイダンスがここで行われたこともあるが、現在では自校の歴史や思想的・宗教的背景について認識を徹底し、学生相互、学生と教員の親和を図るために、次のような内容で行われる。</p> <p>本学ゆかりの聖堂やマリア像訪問、PPTによる自校の歴史講話、学科ごとのプログラム、合同の親睦ミニゲーム、見学プログラム（オルゴール博物館など）がそれである。たとえば近時の人間文化学科の学科プログラムは「他己紹介」で、初対面に近い相手からインタビューによってその人となりなどを聞き出し、大勢の前でそれを発表するというプログラムで、コミュニケーション力とプレゼンテーション力が鍵となることを意識させるものとなっている。</p> <p>幼児保育学科は、専攻科入学生を同行して、入学後の学生生活を含めたガイダンスなどを行っている。</p> <p>なお、人間文化学科は、ディプロマポリシーの内に「人とつながる心」をうたっていて、入試選考の機会などにも、宿泊研修に耐えられるかを確認している。それでも欠席や体調不良を理由とするプログラムへの不参加はまま見られる。これは、学生の傾向の早期の発見につながっていて、爾後の対策に生かされることになる。幼児保育学科でも同様である。</p> |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) 星美学園短期大学から新島学園短期大学へ

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | 新島学園全体の「教育の5原則」の中に「天然資源の利用を学ぶ」とありますが、現代的視点から見て、何を指しているのでしょうか。 | 「資源を大切に作る心」を指しており、エコロジーの観点から資源ごみの回収や節電に積極的に取り組んでおります。 |
| 2 | 建学の精神や教育理念を周知徹底していくために配布している『キリスト教教育のしおり』の内容をご呈示ください。 | 別途添付の『キリスト教教育のしおり』をご覧ください。 |
| 2 | 「チャペルアワー」、「サマーキャンプ」、「キリスト教文化週間」について、まずは、どのような取り組みなのか具体的に教えてください。 また、それらへの学生の参加は単位になるのかどうか、全員参加か、あるいは任意の参加なのかについても教えてください。 | 「チャペルアワー」は礼拝の事ですがクリスチャンではない学生教職員も共に集う場であるためこのような呼び方をしております。毎週火曜2限目に行っており、すべての学生教職員が参加できるようこの時間は授業を行わず、図書館なども閉館となります。強制ではありませんが、「キリスト教入門」など一部の授業や推薦編入の際に出席率が参考にされる場合があります。「サマーキャンプ」は例年9月初めに一泊二日で軽井沢において行います。宗教委員会主催で開会礼拝に始まり閉会礼拝に終わる修養会ですが、どんな学生でも参加しやすいようプログラムは配慮しています。定員30名を上限とした希望者による行事です。「キリスト教文化週間」はキリスト教の文化や考えに親しむことを目的に2週間にわたり企画展、講演会(2回)などを行います。これも任意の参加です。 |
| 2 | 「建学の精神や教育理念に関して、今日的な状況を踏まえつつ再解釈しつつ共有化する努力が続けられている」とありますが、「今日的な状況」とは具体的に何を指すのでしょうか。 | 創立時には予想していなかった少子化や社会状況の変化による学生数の減少、それに伴う改組転換や共学化、理事長や学長のクリスチャンコードが外されたことなどがそれにあたります。 |

| | | |
|---|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | <p>キリスト教主義教育の検証がなされ、その充実に向けた歩みがなされているとありますが、その「検証」の中身について具体的に挙げてください。</p> | <p>2007年に新島学園全体のキリスト教教育を検証するため「キリスト教教育諮問委員会」が設置され一年間にわたる答申が報告書としてまとめられました。本学でもそれを踏まえ、それ以降のキリスト教教育をさらに充実させるための歩みがなされています。宗教委員会での事業計画や報告に達成の状況が反映されるほか、2011年には宗教主任が本学の「キリスト教教育の現状と課題」を報告書としてまとめました。</p> |
|---|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | <p>【キャリアデザイン学科】 キャリアデザイン学科において、教育の質を保証するために行っている「学生による授業評価アンケート」は、全科目を対象にしてはいないとありますが、その理由は。 また、アンケートを実施する科目を選択しているとしたら、その基準を教えてください。</p> | <p>全科目を評価していた時期もありましたが、多くの担当科目にわたって共通に指摘される項目や重複する傾向の評価が出ることもあったことと、集計作業が大変だったこともあり再検討をいたしました。その結果、評価が高く出る傾向のあるゼミ関連科目は評価科目から除外し、専任教員は各学期に2科目を、また非常勤教員は1科目を対象に評価を受けることにしました。なお、専任教員の評価対象科目2科目のうち1科目は評価・計画委員会が選択し、あとの1科目は各教員が選択します。</p> |
| 3 | <p>「学生による授業評価アンケート」を通して教育の質の堅持、向上に向けた情報収集に努めているとありますが、結果を踏まえての改善計画は、どのように検討されていますか。</p> | <p>評価対象科目において、評価の平均が4.0点(5点満点)以下の場合(必修科目においては3.8点以下の場合)、担当教員は自己分析と今後の改善取り組みについて評価・計画委員会宛に報告文を作成することになっています。さらに、4.0(必修科目は3.8)に満たない科目については、直近の学期に当該科目の再評価を受けます。アンケート結果は学期ごとに冊子にまとめています。現段階では、これらをもとにしてのたとえばワークショップ開催などの取り組みはまだなされていません。</p> |
| 4 | <p>【キャリアデザイン学科】 「授業公開週間」を設置し、原則全ての授業を公開してい</p> | <p>キャリアデザイン学科におけるすべての開講科目はもちろん、他学科の科目も公開されています。</p> |

| | | |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>るとありますが、キャリアデザイン学科内のすべての授業なのか、教員の参加状況を教えてください。</p> <p>また、教員相互に学び合っ て個々の授業の質の向上を 目指すとありますが、具体的 にどのような取り組みなの でしょうか。</p> | <p>現在は、「公開週間」中に他教員の科目を参観することを強く推奨(義務化はしていません)しております。参観の結果は報告書としてまとめ、参観教員から担当教員に直接伝達することになっております。参観する教員は全教員中約半数強です。</p> |
| 4 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>「教育の効果は、保育者として就職していることから上がっている」とありますが、保育所・幼稚園への就職率でそれが測れるものなのでしょうか。</p> <p>また、1年以内の離職率の追跡調査は行っているのでしょうか。行っているのであれば概要を教えてください。</p> | <p>保育士・幼稚園教諭の養成校であるコミュニティ子ども学科では、教育の効果は、保育所・幼稚園・施設へ8割以上が就職し活躍している事からある程度は測れるものと考えます。</p> <p>1年以内の離職率の追跡調査は特に行ってはおおりません。</p> |
| 4 | <p>【キャリアデザイン学科】</p> <p>「キャリアデザイン学科での学習成果を測定する仕組みは、必修科目についてはおおむね整っている」とありますが、その仕組みを教えてください。</p> | <p>学科として、「英語能力」「PC運用力」「日本語能力」「数学」については全学生が等しく基礎能力をつけるべく指導をしています。卒業要件として、英語については学内で作成した「英語基礎力認定試験」ならびに必修科目「総合英語」の合格、PCについてはタイピング、Word、Excelの基礎運用力を認定する学内作成の「PCパス」ならびに必修科目「情報処理」の合格、また、日本語については漢字検定3級以上の合格を求めています。また、必修科目「数的リテラシー」を2011年度に開講しました。</p> |
| 4 | <p>「教育向上のためのPDCAサイクルを従来以上に機能させるため、学校全体としての教育向上プランの作成を検討する予定」とありますが、</p> | <p>例年11月に教育研究会において、1~2名程度の教員が研究発表を行っています。授業実例報告、専門分野の研究報告、キリスト教教育のあり方や関わり方の考察など多岐にわたるテーマを素材に研修の時間をもちます。</p> |

| | | |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>「教育向上プラン」とはどのようなものでしょうか。</p> <p>また、作成検討のスケジュールについて教えてください。</p> | <p>これを基本にした PDCA サイクルに落とし込んだ教育向上プログラムの作成には、まだ至っておりません。今後の検討課題です。</p> |
| 5 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>「教育の質を保証するために専門分野が異なる教員間で学び合う機会を設ける必要がある」とお考えのようですが、具体的にはどのような方法をお考えでしょうか。</p> | <p>ある専門分野の教員が中心となって教員間で F D 研修会を実施する必要があると考えています。又、専門分野の異なる複数の教員でオムニバス授業を行い、教員間での勉強を行っています。学会等における共同研究と発表も必要と考えています。</p> |
| 7 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>コミュニティ子ども学科で行ってらっしゃる地域社会との連携による子育て支援の中で、「チャイルド広場」「ネットを活用した子育て支援」について詳しく教えてください。</p> | <p>「チャイルド広場」について</p> <p>「チャイルド広場」は、少子化、核家族化が進み、いわゆる、“密室育児”の増加とともに、乳幼児に関わる経験が無いまま母親になることで、子育てに不安と悩みを抱える家庭が多くなっている現状を考慮し、本学が行っている子育て支援活動です。</p> <p>①親子がゆったりと触れ合うことの出来る遊びの場、子育て仲間の出会い・交流の場を提供する。</p> <p>②子育てに関するミニセミナーを開催したり、子育て相談を行って育児支援をする。</p> <p>③子どもと親、祖父母の三世代の交流をはかることで、異なる世代の育児に関する相互啓発の場を提供する。</p> <p>④本学学生が乳幼児と関わることで乳幼児への理解を深める。</p> <p>といった、4つの目標を掲げて、活動を行っています。具体的には、地域の0歳から就学前の乳幼児とその母親を対象に、月1回、本学の子育て支援専用の部屋（「チャイルド広場」）を遊びの場、また、教員、学生、地域の子育て経験者との交流の場とし、子育て相談、子育てに関する情報提供及び講習会、様々な分野の講師によるミニ講座などを行っています。</p> |

| | | |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>「ネットを活用した子育て支援」について 本学コミュニティ子ども学科では、より地域に密着した子育て支援のあり方を常に模索、検討しています。「ネットを活用した子育て支援」は、ネットが普及する現在、子育て支援の有効な方法の一つと考えています。短大にまで、足を運べない親、緊急を要するような子育てに関する不安や悩みを持つ親に対し、いつでも対応できる相談窓口を設けることで、より安心して子育てが出来る地域社会の創生を目指そうとする案であり、①メールでの子育て相談対応 ②子育て支援サービスの紹介などが、ネットによる支援の基本になると考えられます。</p> |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準 I - B - 2 学習成果を定めている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 | 職業能力適性検査の結果が出てから、「選択科目」の履修登録をするのでしょうか。このあたりの手順を教えてください。 | 職業能力適性検査と履修登録は特に連動はしておりません。チェックシートも特に用意しておりません。1年次春学期の「キャリアデザイン論」の授業の中で「職業能力興味検査」を行っております。 |
| 8 | 単位なしの「補習」科目について、学生の履修方式や出席状況を教えてください。 | 履修方式ですが、キャリアセンターが補習の日程等を決めて、掲示板で告知します。参加の申し込みを一応取りますが、途中からの参加も認めています。出席状況は、正式な科目でないため、回数が進むにつれて徐々に減少していき、最終的には当初の申し込みの3分の2から2分の1ほどに減少します。 |
| 9 | ボランティアによる教育成果の評価について、今後の見通しを教えてください。 | ボランティアに参加した学生は、ボランティア内容等を記録し、証明書として保管しており、現在は特待生の選考や、編入推薦選考時にその内容と学生の評価について検証したり、学内チャペルやサマーキャンプでボランティア経験を話してもらうことで教育の成果をみています。今後は、ボランティアでの経験を発表できる機会や教員が把握する機会を増やししながら、その後そのボランティア内容が学生の成長にどのように役立つ |

| | | |
|--|--|---------------------------|
| | | ているかを確認し、検証していきたいと考えています。 |
|--|--|---------------------------|

基準Ⅰ-C 自己点検・評価

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 12 | 「自己点検・評価活動を担当する組織を明確にし、早急にその組織の規定を作成する」と、ありますが、具体的に何年度から実施されるご予定かを教えてください。 | 現在、原案を検討し、修正している最中ですので、遅くとも2013年度中に規程を作成、施行する予定です。 |

基準Ⅰ-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | 評価・計画委員会では具体的にどのような自己点検評価活動をしているのでしょうか？例えば、授業アンケート、公開授業（教員相互の授業見学）等、FD活動について具体的に教えてください。 | 評価・計画委員会では、第三者評価、相互評価等の外部評価に関する実施方法、スケジュールの検討、原稿の検討を行い、評価結果を受け、各委員会に対する改善依頼を行っています。他には、授業評価の実施方法、質問項目の検討、公開授業週間の実施方法、時期設定を行っています。 |

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 15 | 【コミュニティ子ども学科】 「キリスト教や聖書ならびに、新島襄の教育理念の基礎的知識と理解を身につけていること。」については建学の精神に関わることと思われませんが、この方針に関してはコミュニティ子ども学科では、どのように取り入れられていますか。 | カリキュラムとしては選択必修科目として「新島襄—その時代と生涯—」、必修科目として「キリスト教入門」「キリスト教音楽」と「キリスト教保育」を設けています。また、毎週行われているチャペルへの参加（強制ではありませんが）を勧めています。 |

基準Ⅱ－A－2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 17 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>「保育実習」などの実習科目が修得できない場合は、卒業できないことになると思いますが、修得できない場合、次年度に実習科目を再履修することはできるのでしょうか。</p> | <p>他の科目と同様、原則として再履修になります。</p> |

基準Ⅱ－A－3 入学者受け入れの方針を明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 18 | <p>「キリスト教教育の精神を理解していること」とありますが、入試の時点でどこまで求めていますか。</p> | <p>入試の面接で「本学がキリスト教主義の学校であることを理解しているか」を確認する程度に留まっています。</p> <p>ただし、キリスト教学校出身者には本学入学後、キリスト教活動に積極的に協力してもらうよう要請する場合があります。</p> |
| 18 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>コミュニティ子ども学科には、キャリアデザイン学科の1. 2の項目が記載されていますが、建学の精神・教育の理念にあたる部分が、入学者の受け入れ方針に記されていないのは何故ですか。</p> | <p>学科ごとに比較的短期間で入学者受け入れの方針を作成し、両学科でのすりあわせをしなかった結果であると思われます。現在、両学科とも入学者の受け入れ方針を再検討中で、この点も問題に挙がっています。建学の精神・教育の理念にあたる部分を両学科の共通する部分として取り入れる予定です。2013年未までには改善される予定です。</p> |
| 18 | <p>【コミュニティ子ども学科】</p> <p>「コミュニティ子ども学科のA0入試選抜は、入学者の受け入れ方針に対応している。」とあるが、他の入試方法(推薦・一般など)は、入学者の受け入れ方針にどのように対</p> | <p>当初、「入学者の受け入れ方針」は主にA0入試のために作成しましたが、現在は全学的な方針として位置付けていますので、全ての入試においてこの方針を念頭においた面接・試験を実施しています。</p> |

| | | |
|--|----------|--|
| | 応じていますか。 | |
|--|----------|--|

基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 20 | 両学科とも習熟度別クラス編成がなされていると記されていますが、どの様な科目がどのくらいの人数で何クラスぐらい設定されているのか教えてください。 | <p>キャリアデザイン学科では、必修科目のうち【総合英語】と【数的リテラシー】の2科目において、入学時にプレースメントテストを実施し、その点数により4クラスの編成を行っています。1クラスあたりおおよそ30人前後です。総合英語においては、習熟度の低いクラスには【英語基礎力認定試験】と呼ばれる学内資格への合格を課し、これに合格しないと単位認定が行われません。同じく必修科目の【情報処理】では、プレースメントテストの一環として全員に学内資格の【PCパス1、2】への取得を課し、これに合格しないと単位認定が行われません。2012年度までは【文書理解の基礎】で、2013年度からは【基礎演習Ⅰ】にてそれぞれ漢字検定（漢検）3級以上の合格を課し、単位認定に連動させています。英語基礎力認定試験・PCパス・漢検の3つは1年時に約6～7割が取得し、残りの未取得者についてはゼミ担当教員・各科目教員による指導を行っています。</p> <p>選択科目については、ITグループなどでは上記のPCパスの取得を履修条件にしている科目が6科目、その他会計や語学科目などでは履修指導において基礎科目から応用系科目へと履修できるように工夫し、演習系・語学系科目の場合はクラスを分ける場合もあります。</p> <p>コミュニティ子ども学科では、授業とは別に設定している（ピアノレッスン）において、習熟度に応じて1クラス4～6人で構成された8～9クラスを設けています。</p> |
| 20 | 評価制度にGPAを導入しているおり、卒業要件に累積GPAが1.5ポイントを下回る場合、留年させるという捉え方 | <p>累計GPA値が1.50を下回った際は、留年となります。過去3年間に該当した学生数はキャリアデザイン学科で下記の通りです。</p> <p>2012年度 キャリアデザイン学科のべ1人</p> |

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>でよいのでしょうか。実際にはどのくらいの学生数になるのかお示してください。</p> <p>また、別の項目では、コミュニティ子ども学科において、</p> <p>「現カリキュラムでは必須である保育士資格取得を卒業要件からはずし、保育・幼児保育を一般教養としての学びと捉えたカリキュラム構成の検討」とあり、それが、「保育士資格のレベル向上を目指す」とありますが、このことについて総合的な考えを教えてください。</p> | <p>(春学期1人、秋学期1人)</p> <p>2011年度 キャリアデザイン学科1人(春学期1人)</p> <p>2010年度 0人</p> <p>コミュニティ子ども学科は、2010年度に1人、累計GPA値が要件を満たさず卒業不可、除籍(学費未納のため)となったケースがあります。</p> <p>入学当初は保育者を目指しているものの、途中で進路変更し、保育者を目指す意欲の減少から、必修である保育実習の修得が困難となる学生が例年見受けられます。そのような学生にも卒業の道を拓くべく、より学生のニーズに即したカリキュラムを検討課題として模索しています。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 21 | <p>卒業後アンケートの目的と結果、結果の活用状況についてはいかがでしょうか。</p> <p>また、卒業後アンケートと就職先聴き取り調査の結果は、ディプロマポリシーと照らし合わせ、どうでしたか。調査によるディプロマポリシー達成の確認から、課題、改善策は、ありますか。</p> | <p>卒業後アンケートは、卒業後1ヶ月後に実施しています。回収状況は40%弱であり、結果はほとんど活用されていないのが現状です。</p> |
| 21 | <p>卒業後1ヶ月後に卒業生アンケートを行う理由について教えてください。もう少し職場になじんでから(たとえば6月頃)行うという考えもあるのではないのでしょうか。</p> | <p>文部科学省による学校基本調査が5月1日付となっており、これに合わせた形で実施しています。これ以外となると二重の手間と費用もかかるため、今のところ増加・変更の考えはありません。</p> |

基準Ⅱ－B 学生支援

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22 | 学生の履修登録にもコンピュータを使用しているのでしょうか。登録方法を教えてください。 | 学生は「新短ネット」を通して履修登録を行います。学内のPCから登録用のページに入り、画面に映し出される時間割の中から希望科目をクリックすることで登録を行うことができます。「新短ネット」ではシラバスを閲覧することもできます。 |
| 23 | 奨学金制度に2年生対象の在学学生特待制度があるとのことですが、どのような学生が対象となるのでしょうか。 | 奨学金を希望する2年次の学生に自己推薦文を提出させ、その中から1年次の成績が優秀であって、イベント・ボランティア等の学内外の活動において活躍がみられた学生を選考します。各学科1～3名が特待生に選ばれています。 |
| 24 | 「教員のコンピュータ利用技術にばらつきがある。」とありますが、貴学では教育課程や学生支援の充実のために、最低限どのレベルまでコンピュータ利用技術を必要としていますか。 | 特に決められたレベルはありません。研修等も行われていないのが実情です。日常的な学内事務に関わるメールの送受信、エクセル等を用いた書類の作成等については、大半の教職員が行うことができますが、「新短ネット」の利点を授業等で活用できていない教員が多いといえます。例えば、ネット上で学生に連絡を行ったり、課題やレポートを提出させるといったようなことです。 |

基準Ⅱ－B－1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25 | 担当事務職員に義務付けられている資格について、具体的な資格名を教えてください。 | 必須資格…日商簿記3級、FP技能士3級、総務3級、税務3級、財務3級、 英検準2級、MOS（スペシャリスト） ステップアップ…行政書士、社会保険労務士、日商簿記1・2級、 FP技能士1・2級、宅建主任、基本情報技術者、英検2級、税務2級、 財務2級、総務2級、MOS（エキスパート） など21種 *いずれか2資格を取得します。 |

基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 27 | <p>学生の、Web 上のシラバスの閲覧状況、特に履修期間後の確認のための閲覧数を把握しているでしょうか。もしその数字があれば教えてください。</p> | <p>閲覧数は把握していません。ログはとっているものの、それを利用している状況ではありません。学生は Web 上で履修登録を行いますが、その後そのデータを事務局側で成績システムに反映させる際に、履修登録における各種エラーが発見されるため、履修登録後に確認期間を設け、その確認期間の際に著しいエラーが発生しないよう、事務局とゼミ教員とでフォローしています。</p> |
| 27 28 | <p>学内外の検定試験の合格を義務づけているということですが、それらに最後まで不合格だった場合の処置について教えてください。</p> | <p>PC パスは情報処理と、英語基礎力認定試験は総合英語とそれぞれ必修科目の単位認定に係る要件であるので、合格できなかった場合は卒業できません。この件は学生には履修ガイダンスおよび各ゼミにおいて周知徹底し、不合格者には合格を促すように担当教員とゼミ教員が指導を行っています。漢字検定は「文章理解の基礎（2012年度以前の入学生）」「基礎演習Ⅰ（2013年度以後入学生）」の文章理解の基礎の単位認定に係る要件であるので、上記二科目と同様の扱いとなり、不合格者にはCBT受験も含め受験を何度もすすめて合格できるように奨励しています。漢字検定の実施タイミングが合わない場合は、同等の学内試験を実施する場合がありますが、何れにしてもこの試験においても不合格であった場合は必修科目の単位認定ができないため、卒業できません。</p> |
| 28 | <p>希望者に対する各種対策講座の受講者数（割合）と、その効果、確認方法について教えてください。</p> | <p>【コミュニティ子ども学科】 コミュニティ子ども学科では「群馬県私立幼稚園教諭採用適性検査」及び「群馬県保育協会 保育士採用統一適性検査」のための対策講座を設置しています。例えば、2013年度は計15回の対策講座を実施しました。群馬県内の保育士、幼稚園教諭志望の学生は全員受講することになっており、全15回出席者は14%、10回以上出席者は33%、平均出席率は43.8%となっています。 その効果としては、①過去問に当たることによ</p> |

| | | |
|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>り、学生一人一人が出題傾向を確認することができる、②学生一人一人が自分の不得手分野を確認できる、③対策講座を担当する各教員がそれぞれの専門分野における、学生達の習得度を確認できるので、どこを補強・強化して指導すべきか確認できる、などを挙げるができます。</p> <p>また、効果の確認方法としては、適性検査の結果に基づき、①年毎の本学学生のA～Eの評価分布の変化をグラフ化して、講座を実施した効果がどの程度上がっているか、②県全体の平均と比較して、どの分野の補講を強化すべきか、③A評価の学生の公立の保育所、幼稚園への就職比率はどの程度か等を検討・精査することにより、確認していく必要性があると考えています。</p> <p>公務員志望者、及び、4年制大学編入希望者に対しては、キャリアデザイン学科の通常科目として設置されている公務員試験対策講座、小論文作成法等と、8・9月の夏期休業中に設置されている公務員補習講座計44コマの受講を指導しています。公務員、及び、大学編入の受講者数はコミュニティ子ども学科学生の1割弱程度で、その効果に関しては、キャリアセンターが集約するシステムになっています。</p> <p>【キャリアデザイン学科】参考</p> <p>各種対策講座は授業科目と補習講座の2種類があります。</p> <p>(1) 4年制大学編入対策</p> <p>授業科目として行っているものは特定大学向けではない一般的なもので、個別の教育効果の把握は、定期試験によるしかありません。補習講座は特定大学向けです。特定大学とは、信州大学、群馬大学、高崎経済大学、県立女子大学です。もっとも受講者が多いのは高崎経済大学です。ただし、近年は途中から補習に出てこなくなる学生も少なくありません。</p> <p>補習講座は科目別であり、試験は複数科目で行われるので効果測定は困難です。しかし国公立大</p> |
|--|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | <p>学合格者が毎年 30 名近くいるので、全体として効果があると考えています。</p> <p>(2) 公務員対策講座</p> <p>授業科目として行っているものは、文系分野全般と理系分野全般に分かれます。受講者数は 20～30 名です。補習講座は数名の教員が各分野を担当します。科目・講座個々の評価は困難です。しかし公務員試験合格者数は少ないながらも少しずつ増加傾向にあるので、対策は効果があると考えています。</p> |
|--|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

基準Ⅱ－B－3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 30 | <p>「新島学園短期大学貸与奨学金」「在学特待」の基金の財源はどのように確保されていますか。</p> <p>また、奨学金、特待生制度が充実していますが、費用対効果はいかがでしょう。</p> | <p>おおよその定員を定め、予め予算化しています。本学独自の奨学金については、返還もほぼ問題なく行われています。</p> |
| 30 31 | <p>大学祭は基本的に全員参加ですか。実態として参加率はどれくらいでしょうか。</p> | <p>全員に参加を強制しているわけではありませんが、ゼミへの帰属意識が強い傾向もあり、80～90 パーセントの学生は参加しているといえます。</p> |
| 30 | <p>遠隔地出身の学生に対して、住宅費補助も支給されていますが、どのような基準がありますか。</p> | <p>県外出身者には、例外なく補助を行っています。県内者でアパート等を借りている学生については、実家からの通学に2時間以上を要すること、交通機関を3回以上乗り継がなければ通学できない学生を対象に月額1万円を支給するという規程があります。</p> |
| 31 | <p>パソコン室を学生のために常に開放されていらっしゃると思いますが、どのように運営されていますか(職員の配置、利用規則など)。</p> | <p>PC 室に常駐する職員はいません。情報担当の教員や、非常勤の講師が授業や講習の前後などに滞在したり、見回ったりすることがある以外は、困ったことがあれば、学生自身が事務室に連絡してくるということになります。PC 室内での飲食は禁じています。</p> |

基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 32 | <p>キャリアセンター室の設備、情報、資料等の学生の活用状況はどのようになっていますか。</p> <p>また、学生への対応なども職員が充分に行うことができる環境でしょうか。</p> | <p>面接室、パソコンコーナー、各社の求人情報、試験情報等が整備されています。大学別過去問（編入）、企業の試験、面接課題等も整備され閲覧可能です。職員も、編入学、一般就職、保育所、幼稚園等分野分けされており、充実した体制となっています。</p> |
| 32 | <p>教員の進路支援体制、組織は、どのようになっていますか。</p> <p>また、教員とキャリアセンターとの連携はどのように実施されているのでしょうか。</p> | <p>コミュニティ子ども学科では1学年につき1名の進路担当教員を配置し、キャリアセンターとの連携を図っています。進学、就職の状況は逐次報告し、情報の共有は行われています。</p> <p>学長、事務長、教員（2名）、キャリアセンターの5名で進路ワーキング作業部会を随時開催し、学生の進路に対する新施策を策定しています。</p> <p>進路ワーキンググループの発案により、「四年制大学編入ガイド」を共同で作成し、学生に配布し、ガイダンスを行いました。</p> |
| 32 | <p>種々の進路支援対策が行われていますが、進路支援に関するPDCAサイクルは、どのように機能していますか。</p> | <p>年間スケジュールの作成に始まり、1年次のスタートから各種ガイダンスを実施し、週間毎の反省と計画を実行しています。教員へは原則一週間毎に進路状況報告を行っています。</p> |
| 32 | <p>編入希望者や公務員受験対策の補習は、誰が実施しているのでしょうか（外部委託か、職員か）。職員が行う場合、教職員等の協力、連携については、どのようになっているのでしょうか、また、問題はありませんか。</p> | <p>キャリアセンターが大学毎の編入試験対策、公務員補習プランを作成し、専任・兼任教員、職員が共同で補習授業に対応しています。今のところ大きな問題はありません。</p> |
| 32 | <p>就職率を考えた場合、新規就職先の開拓は、どのように行っているのでしょうか。</p> | <p>毎年就職先開拓のため、企業訪問の実施や就職先へのお礼訪問を実施し、開拓に努めています。</p> |

基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している

| ページ | 質問事項 | 回答 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 33 | <p>入学試験のときに、①受験生の「入学者受け入れの方針」への理解と、②受験生と「入学者受け入れの方針」とのマッチングをどのように確認していますか。</p> | <p>A0 入試においては、エントリーシートの内容と面接を通して①と②の確認を入念に行っています。推薦試験と一般試験でも、面接時に①と②の確認を概ね行っており、特に②については、学ぶ意志があるかどうかの確認に力点を置いています。</p> <p>しかし、一般入試の一部（キャリアデザイン学科のセンター試験利用入試）では面接を行わないため、アドミッションポリシーへの理解とマッチングの度合いは、出願理由書の内容から読み取ることしかできないのが実情です。</p> |

6. 議事録

星美学園短期大学・新島学園短期大学 第1回相互評価委員会 議事録

日 時 2014年1月16日(木) 13時40分～16時10分
場 所 新島学園短期大学旧館第一会議室
出席者 (敬称略)
星美学園短期大学
阿部 健一 学長
打越みゆき 幼児保育学科専任講師・自己点検第三者評価委員会副委員長

新島学園短期大学

狩野 俊郎 学長
小林 俊哉 キャリアデザイン学科教授・学科長
前田 浩 キャリアデザイン学科教授・ALO・入試部長・評価計画主任
山口 憲二 キャリアデザイン学科教授・教務部長
渡邊 哲也 コミュニティ子ども学科教授・学科長
澤田まゆみ コミュニティ子ども学科准教授・ホームページ等編集管理主任
高山 有紀 キャリアデザイン学科准教授・学生部長
山下 智子 キャリアデザイン学科准教授・宗教主任
三宅 豊 事務長
根岸 治彦 キャリアセンター部長
御供 正人 総務財務課主任

司会 三宅 豊 記録 御供 正人

議 題

1. 新島学園短期大学長の挨拶および出席者による自己紹介(13時40分～13時55分)
新島学園短期大学狩野学長より挨拶がなされ、続いて新島学園短期大学の出席者と星美学園短期大学の出席者より自己紹介がなされた。
2. 星美学園短期大学からの質問に対する新島学園短期大学からの回答
(13時55分～14時50分)
『新島学園短期大学 自己点検・評価報告書』に記載してある以下の項目に関して質疑応答を行った。
 - (1) 宗教行事に関して
 - (2) 教育の質保証に関して

- (3) 子育て支援に関して
- (4) 学習成果の評価に関して

3. 今後の相互評価の進め方 (15時～15時25分)

今後の日程、『相互評価報告書』の内容については、以下のように決定した。

(1) 今後の日程について

- ①1月22日(水)13時から、第2回相互評価委員会(会場:星美学園短期大学)
- ②2014年3月末までに『相互評価報告書』を作成し、短期大学基準協会に提出する。

(2) 『相互評価報告書』の内容について

- ①『相互評価報告書』には、協定承諾書、『自己点検・評価報告書』の内容に関する質問事項・回答、相互評価結果、相互評価委員会議事録を掲載する。
- ②挨拶文に関しては、「はじめに」は両短期大学長が執筆し、「あとがき」は新島学園短期大学ALOの前田教授が執筆する。
- ③相互評価結果に関しては、基準ごとに優れた試みと評価できる事項を5～7つ記載し、向上・充実のための課題を3～5つ記載する。1つの事項の文字数は、約120文字とする。
- ④相互評価委員会の議事録は、会場校が作成する。
- ⑤『相互評価報告書』のデータは共有し、製本に関しては、各短期大学で決定する。

4. 学内視察 (15時30分～16時10分)

新島学園短期大学の施設見学が、以下のルートで行われた。

旧館第1会議室→①本館(ホール、A11、A21、S1)→②図書館棟(礼拝室、図書館、音楽室、ピアノレッスン室、保育実習室)→③旧館(キャリアセンター、チャイルド広場)→④グレースホール(食堂、G21、G22)→⑤研究棟(CC学科室)→旧館第1会議室

以上

新島学園短期大学・星美学園短期大学 第2回相互評価委員会 議事録

日 時 2014年1月22日(水) 12時50分～15時50分

場 所 星美学園短期大学 第一会議室

出席者 (敬称略)

新島学園短期大学

狩野 俊郎 学長

前田 浩 キャリアデザイン学科教授・ALO・入試部長・評価計画主任

山口 憲二 キャリアデザイン学科教授・教務部長

澤田まゆみ コミュニティ子ども学科准教授・ホームページ等編集管理主任

山下 智子 キャリアデザイン学科准教授・宗教主任

上岡 紀美 コミュニティ子ども学科専任講師

御供 正人 総務財務課主任

星美学園短期大学

阿部 健一 学長 ※

小島 順子 副学長

草野 隆 人間文化学科長・教授・図書館長 ※

永井ムツ雄 人間文化学科教授・学生部長 ※

武田 秀美 人間文化学科教授

江口 政江 人間文化学科教授・CMP副センター長 ※

町田 治 幼児保育学科長・教授

田中 直美 幼児保育学科准教授・教務部長・ALO・第三者評価員 ※

打越みゆき 幼児保育学科専任講師・自己点検・第三者評価副委員長 ※

佐藤由紀子 事務長・キャリアセンター長

白山 真澄 企画管理課長・入試広報センター長 ※自己点検・第三者評価

委員会メンバー

司会 佐藤 由紀子 記録 白山 真澄

議 題

1. 星美学園短期大学 学長の挨拶 (12時50分～12時55分)

2. 星美学園短期大学出席者による自己紹介 (12時55分～13時00分)

星美学園短期大学阿部学長より挨拶がなされ、続いて星美学園短期大学の出席者より自己紹介がなされた。

3. 新島学園短期大学 学長挨拶 (13時00分～13時05分)

4. 新島学園短期大学による自己紹介（13時05分～13時10分）

新島学園短期大学狩野学長より挨拶がなされ、続いて新島学園短期大学の出席者より自己紹介がなされた。

5. 新島学園短期大学からの質問に対する星美学園短期大学からの回答

（13時10分～14時20分）

『星美学園短期大学 自己点検・評価報告書』に記載してある以下の項目に関して質疑応答を行った。

- （1）建学の精神に関して
- （2）教育の効果に関して
- （3）教育課程に関して
- （4）学習支援に関して
- （5）学校行事に関して

6. 今後の日程、相互点検の再確認（14時20分～14時25分）

今後の日程、『相互評価報告書』の内容については、以下のように決定した。

（1）今後の日程について

2014年3月末までに『相互評価報告書』を作成し、短期大学基準協会に提出する。

（2）『相互評価報告書』の内容について

- ①『相互評価報告書』には、協定承諾書、『自己点検・評価報告書』の内容に関する質問事項・回答、相互評価結果、相互評価委員会議事録を掲載する
- ②挨拶文に関しては、「はじめに」は両短期大学長が執筆し、「あとがき」は新島学園短期大学ALOの前田教授、星美学園短期大学でも1名（後日決定）が執筆する。
- ③相互評価結果に関しては、基準ごとに優れた試みと評価できる事項を5～7つ記載し、向上・充実のための課題を3～5つ記載する。1つの事項の文字数は、約120文字とする。
- ④相互評価委員会の議事録は、会場校が作成する
- ⑤『相互評価報告書』のデータは共有し、製本に関しては、各短期大学で決定する

7. 学内視察（14時25分～15時50分）案内 学長、小島副学長、江口、打越

星美学園短期大学の施設見学が、以下のルートで行われた。

【屋外】星美学園幼稚園（外観のみ）、聖堂、ピーノのへや（子育て支援室）、星美ホーム（外観のみ）

【図書館棟】図書館、大講義室

【短大1階】調理実習室、ステラホール、デイリーヤマザキ

【短大4階】ML教室、小児保健実習室、ピアノレッスン室、図工室、リトミック室

【短大3階】LL教室、視聴覚室、情報処理教室、ラウラールーム（ラウンジ）、茶室

【短大 2 階】 研究室、学習支援室、染色室、被服室、祈りの部屋、就職資料室

以上

新島学園短期大学との相互評価を終えて

星美学園短期大学

ALO 田中 直美

新島学園短期大学と星美学園短期大学の相互評価を無事に終えることができ、ご尽力いただきました新島学園短期大学の諸先生方、職員の皆様には、心より感謝いたします。

本学はカトリックの短期大学で人間文化学科と幼児保育学科を擁しており、同じくキリスト教精神に基づき、キャリアデザイン学科とコミュニティ子ども学科を有し、建学の精神や学科構成、定員等で酷似している点の多い新島学園短期大学との今回の相互評価から、得るものは大きかったように思います。

特に短期大学の根幹をなす建学の精神をいかにハード面、ソフト面で教職員や学生に浸透させ、教育を行っていくかということは、易きに流れる風潮の中にあっては、最大の課題であると思われまます。資格を取るだけでなく、資格を活かして社会に貢献できる「人間」を育てる、そのための新島学園短期大学のさまざまな取り組みを、報告書や資料、訪問・見学から多く学ばせていただきました。

そして、今回の相互評価の中心の話題であった「学習成果」「学生の質の保障」についても、新島学園短期大学の取り組みは徹底されていました。本学では、「質の保障を目に見える形にする」という点で苦慮しておりましたので、新島学園短期大学の両学科の取り組みを大いに参考にさせていただき、今後の人材育成に活かしてまいりたいと思います。

相互評価のための自己点検に終わってしまうのではなく、新島学園短期大学と星美学園短期大学の更なる発展のために今回の相互評価を最大限に活かすこと、そして、今回のご縁を通じて、これからも互いの交流をしていくことを願ってやみません。

平成 26 年 3 月

星美学園短期大学との相互評価を終えて

評価計画主任 前田 浩

第三者評価に次いで、相互評価を無事終えることができました。これもひとえに星美学園短期大学の阿部健一学長先生、自己点検・第三者評価副委員長の打越みゆき先生をはじめ報告書の作成や訪問調査の対応に携わった教職員の皆様、同じく新島学園短期大学の教職員の皆様のお陰です。まず、ここに感謝申し上げます。

第三者評価や相互評価は、私どものような規模の小さな教育機関では、報告書の作成等にかかりの時間と労力が費やされ、その時間と労力をもっと別な形で有益に使った方が良いのではという個人的な思いもありますが、学校を良くしていくには避けて通れない道だと認識しております。

第三者評価の評価委員を2度経験し、さらに、今回の相互評価に携わって特に思うことは、他の教育機関を訪れることはとても有益だということです。自分の本務校の中にしかいないと、自分の本務校では結構いろいろな努力をしているとある程度自負していても、それは明確な比較対象がないからそう思うのであって、他の学校を見学すると、そこも負けず劣らず頑張っていると感じることが少なくありません。夏にはオープンキャンパスの見学で、また、今回は相互評価の訪問調査で星美学園短期大学を視察させていただき、教職員がとても感じがよいことは言うまでもなく、至るところにキリスト教的色彩が感じられ、至るところに卒業生作品の展示物があり、参考になる部分が多くあり、とても有益な時間を過ごさせていただきました。他にも、3年制で3つの資格が取れる点が興味深く、また、「テアトロ・SEIBI」にかける学生の意欲、指導する教員の情熱にも感銘を受けました。このような機会を与えていただいた星美学園短期大学に対して重ねて御礼申し上げます。

今後は、相互評価の結果で指摘された改善点を着実に改善することが求められます。すでに課題を抽出し、各委員会等で改善策を検討する作業が進められています。後は、PDCAサイクルに乗せて、改善策を着実に実行に移し、チェックしていくことにあります。そして、万全な体制で来る2回目の第三者評価を迎えることが求められます。自己点検評価の道は終わりのない道です。それでも前進するしかありません。

相互評価報告書編集者

新島学園短期大学

狩野 俊郎 前田 浩 御供 正人

星美学園短期大学

阿部 健一 打越みゆき 白山 真澄

新島学園短期大学・星美学園短期大学

相互評価報告書

平成 26 年 3 月 31 日

発行者

新島学園短期大学・星美学園短期大学

新島学園短期大学 <http://ns.niitan.jp/>

〒370-0068 群馬県高崎市昭和町 53 番地

星美学園短期大学 <http://www.seibi.ac.jp/college/>

〒115-8524 東京都北区赤羽台 4-2-14